



## 社会イノベーション事業を加速するための デジタルトランスフォーメーション研修体系 —デジタル人財に必要なものとは？—



今、あらゆる産業において、AI×データ、IoTの活用などにより、新たなビジネスやサービスが立ち上がり、事業構造の変革が起こっています。こうした変革は、デジタルトランスフォーメーション(DX)と呼ばれ、どの企業においても重点経営課題として議論されています。DXは過去に起きた技術トレンドとは異なり、ICTを活用した新たな社会であるSociety5.0を実現するための手段として注目されています。経団連が発表した資料「Society5.0 概要」には、「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会」と定義されています。

※経団連「Society5.0 概要」[http://www.keidanren.or.jp/policy/2018/095\\_gaiyo.pdf](http://www.keidanren.or.jp/policy/2018/095_gaiyo.pdf)



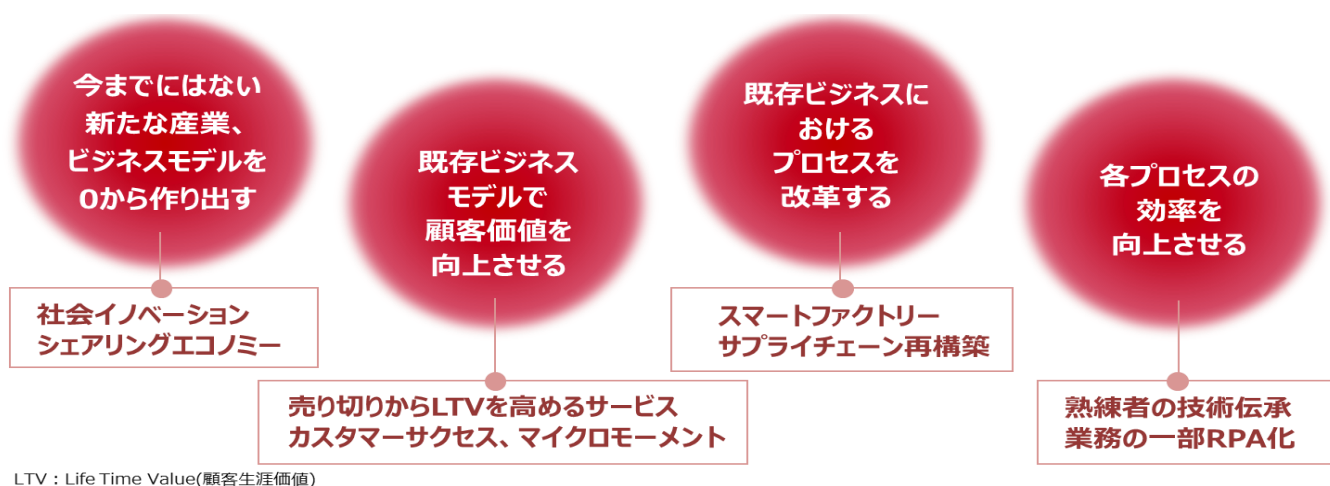
多くの企業においてDXは、実証実験段階から実行段階へ移行しつつあります。DXには、「現場視点でビジネスを考える」、「利用者にとってのデータによる価値を考える」、「価値を生み出すデータを集約する」の三つの視点が重要です。

DXを推進する現場やソリューションを提供する組織など、DXへの関わり方によって、重視するスキルが異なります。

当社では、日立グループ内の多くの有識者と連携し、各社がこれまで蓄えてきた知見と、連携を通じて得られた現場の取り組み、ノウハウを融合して、DX研修体系として継続的に整備し提供しています。

図：日立アカデミーが提供する研修の構造

DXを推進する会社・組織が取り扱う課題はさまざま、時間・空間を含めた異なるレイヤーで分解・構成できます。また、デジタルトランスフォーメーションの時代に合った個人・組織に変容させることも同時に必要となります。



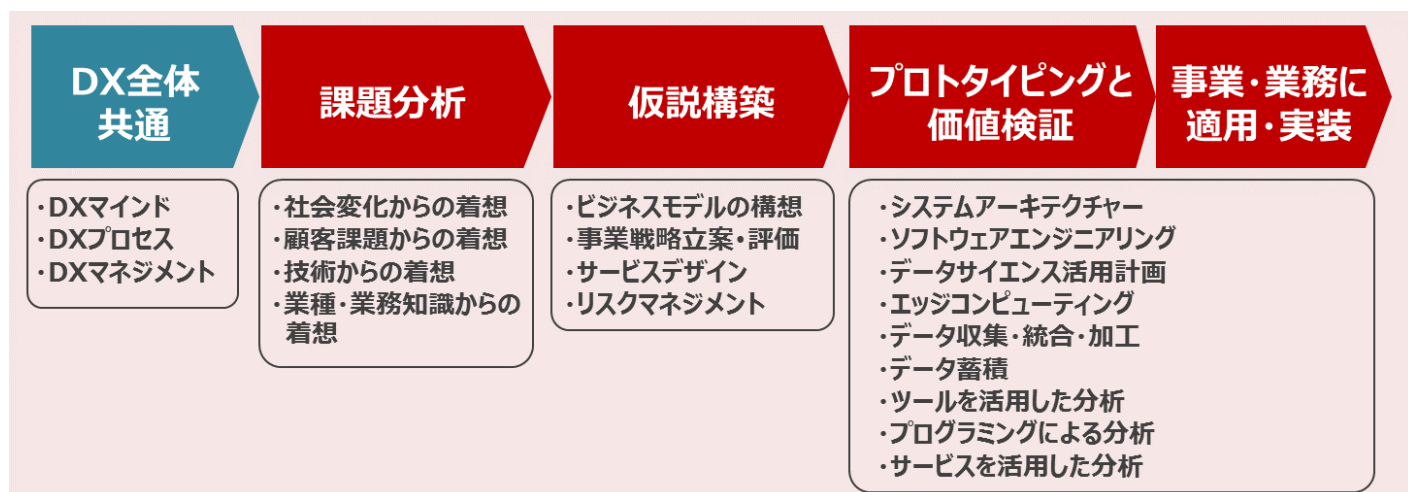
図：DXを推進する会社・組織が取り扱う課題の例

いずれの課題に取り組む場合でも、取り扱う課題をデータで解いて、エコシステムを作りたいと想像することが始まります。その上で、業務、サービスなど、ビジネス(事業)として、どういう形になるか周囲の共感を得るような絵(ピクピクチャ)を描き、データの利活用やデータ分析で解くビジネス課題として定義していきます。ある程度企画がまとまると、データの利活用やデータ分析に必要なデジタルデータを取得する、実際に分析、モデル化し、業務プロセスを変え、業務にモデルを組み込んでいくことで、DXは推進されます。



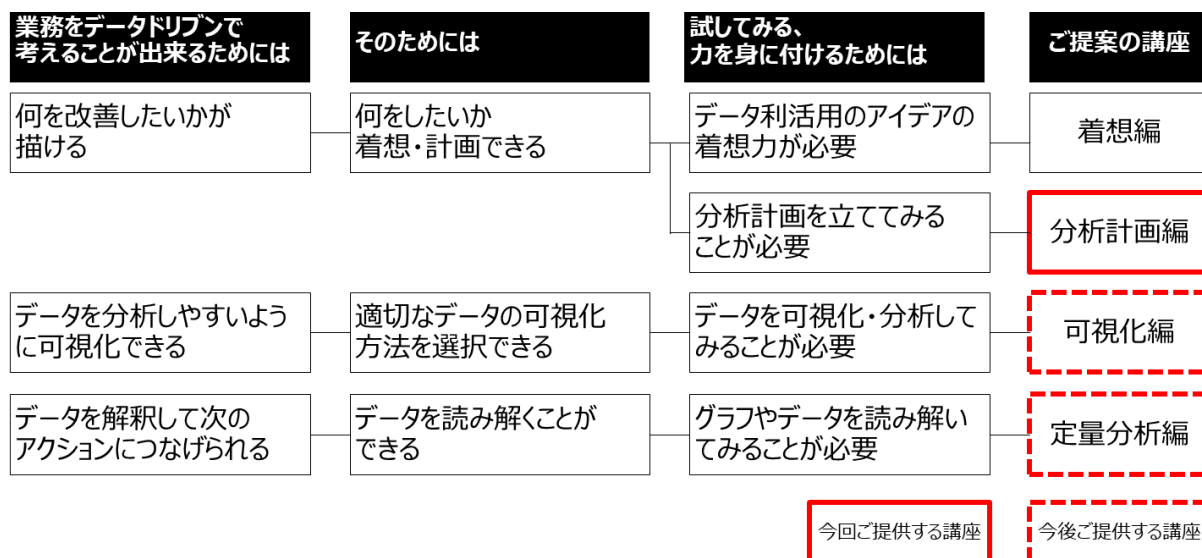
図：DXの推進イメージ

当社は、DXに必要なプロセス・タスクを整理・分類・体系化しています。また、こうしたDXの考え方、プロセスに沿って、必要な人材を育成・拡充をめざしています。



図：DXのプロセスと各プロセスに必要な要素

22年度は、業務をデータにもとづいて（データドリブンに）考えるために必要な知識・スキル要素を構造的に整理し、実践的に学べる講座をご用意しました。着想編は、20年度・21年度に実施した「データ利活用のパターンとビジネス着想」と同等のものとします。22年度は分析計画編、可視化編、定量分析編の開催を予定しています。



図：業務をデータドリブンで考えるために必要な知識・スキルと提案講座

### <日立 IT ユーザ会 今後のご提供研修>

- ・可視化編 10月14日（金）開催
- ・定量分析編 12月20日（火）開催

※詳細は別途ご案内いたします。

### （参考）お薦め後続コースのご紹介

※以下 URL よりコース概要をご覧ください

「EXCEL で学ぶ問題解決のためのデータ分析研修」

[\[OAV049\]Excelによる問題解決のためのデータ分析【バーチャル・クラスルーム】](#)

「データ分析手法の理論と適用」

[\[HSV109\]データ分析手法の理論と適用-ビジネスにおける統計的手法活用の広がり-【バーチャル・クラスルーム】](#)

「定量分析のスキル」

[\[HSV198\]定量分析のスキル【バーチャル・クラスルーム】](#)